

新書紹介『キメラ—満洲国の肖像 増補版』山室信一 著（中公新書）

頭が獅子、胴が羊、尾が龍という怪物キメラになぞらえて満洲帝国を描いたこの肖像は、万感のこもるメッセージと問いかけを放っている。

今から70年以上も前の1932年3月1日に中国東北地方に忽然として出現し、わずか13年5ヶ月余りの生命で、1945年8月18日に姿を消したその「国家」は歴史上でも異質な国家であった。

ただその「異質」は、世の中との隔たりを意味するのではなく、それどころか20世紀の世の中のあらゆる課題を包含するが故にあらわれた「異質さ」であることをこの満洲帝国の肖像を通して知らされるのである。

「キメラ」とは、「奇怪なる幻想」を意味する。

理想郷を実現せんと建国に挺身する関東軍と、それをバックから働きかける日本の天皇制国家と、そして地元の民衆及び、清朝の再興を切望する皇帝溥儀。その三者の異なった思惑が織りなす奇妙な国家を、それぞれ獅子の頭と羊の胴と龍の尾に喩えて大変興味深く描かれている。

「人びとの夢と希望、罪と憤怒、そして悲惨と艱難さとを集め、人びとの血と汗と涙を吸ったキメラ（満洲国）は、消えた。」

との描写は、そんな満洲帝国の「幻想」と評される一生を端的に表されている。

「満洲帝国とは何であったのか」に対する一つの回答がこの短い文章に収まっているかもしれない。

日本の武力による満洲の侵略、という紛れもない「現実」。国際社会に背を向け（国連脱退）ながら、国際の承認を取り付けるための偽装工作。

それが、理想郷を実現し、世界政府の模範国家を提示する、とまで謳われた「理想」のもとに引き起こされたところに満洲帝国建設のある種のユニークさがあった。

その「理想」が、多くの人々を強く惹きつけて、満洲の支配と圧迫を無自覚になさしめ、日本帝国、満洲帝国ともに、破滅の道へ転がり落ちるところまで誘引していったのである。

幻想が悲劇を果てしなく増長し、破滅をもたらし消えようのない傷跡を残していることを象徴的に描かれている。

またこの出来事は、「70年前のある地方での出来事」ではすまされない。私たちの「いま」の問題を、甚大な犠牲を代償に突き付けているものであると強く訴えかけられているのである。

満洲帝国の肖像を、膨大な歴史的資料を博搜して描き出す、という形をとりながらも、国家を問い、人間のあり方をも問う、熱いメッセージのこめられた書であることが伝わってくる。

そして、数十年も前の歴史的事実を、今の私たちの問題ととらえて向き合うべし、とする著者の姿勢は、いま目の前で起こる事件にさえも、傍観主義になりがちだと評される現代の風潮に対する警鐘のようにも思われる。（武田）

京都の憲法運動関係の日程

7月16日(水)16時 京都共同センター運営委員会 場所 教育会館別館

7月22日(火)憲法会議 近畿ブロック事務局長会議 場所 京都教育会館

7月25日(金)19時(開場 18時30分)「裁判員制度を知る会」

場所 京都弁護士会館地階大ホール、参加無料 主催 京都弁護士会

8月21日(木)～24日(日) 全教教育研究集会

8月23日(土)14時「護憲と護国はジキルとハイド？」講師 吉田智弥さん

場所 京都YWCA(室町通り出水上る) 主催:京都YWCA平和委員会

9月13日(土)～14日(日) 演劇「郭」公演 前売 3500円(当日 4000円)

公演 13日:14時・18時30分、14日:14時

場所 呉竹文化センター(京阪丹波橋駅西口)

主催 「郭」上演を成功させる会

9月26日(金)18時30分 京都憲法会議 総会